

蛹期 7日間(?)

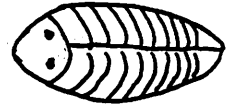
6月25日 香合新田桑の実より現地で成化したもの数匹採集持帰る。

7月1日より気温30℃以上。湿度、食餌採集につとめた。

7月20日頃より気温34℃~38℃(8月12日)水を入れて温度調節をはかった。

8月22日1匹死す。

9月16日1匹死す。



[3mm x 1.3mm]

ガラス水槽(小)で3 exs.夏すぎてから飼育 12月19~20日夜気温3℃~4℃となるため21日朝1匹死す残りこの分2匹となる。

2階南側室温(10℃~12℃)小箱容器土・木片など入れて温度保持しつつ越冬状態に入れる。12月25日死す。

1979年1月3 exs.が越冬したが1月下旬1匹死亡。

2月下旬1匹死亡。4月25日1匹死亡(4月に入ったのでプラスチック容器23℃内外上昇したのか?)失敗であった。成虫越冬することがわかった。

1979年5月12日香合新田に出掛け現地で調査すると昨年と同じ所のクワの老樹に数匹生存していた。

以上大変粗雑ではあるがハラグロオオテントウの生活史の一端を報告する。

兵庫県産珍稀な蛾類の追加

東 正 雄

昭和40年刊行の「京阪新の動物」には19種の珍稀な蛾類を報告した。その後兵庫県下で採集されたなかで著しく珍稀であるもの、やがて絶産となる蛾類について追加する。資料を提供された採集者や協力者に対し深く感謝する。

エゾシモフリスズメ *Maganoton scribae* Astant (スズメガ科)

開張100~120mm。シモフリズズメに似るが前翅の基部後縁に黒色毛があること。前翅の第2・第3室の黒色縦線が巾広いことによって区別できる。成虫は6~8月に出現する。分布は広いが稀である。鳥取県大山、石川県白山の麓の市ノ瀬、ハチ高原の大久保(15-Sep.-1975)での採集記録がある。幼虫の食草はドロヤナギ、ホホノキの葉である。

コウチスズメ *Smerinthus tokyonis* Matsumura (スズメガ科)

開張46~60mm。ウチスズメガに似るが著しく小型。成虫は4~7月に出現するが稀である。分布：本州(埼玉県三峰山、箕面山、比叡山、京都府綾部市、氷上郡妙高山(山本義丸)、柏原(山本義丸)、関西学院千刈キャンプ場で1975年5月4日採集。宝塚市西谷で1976年5月23日♀♂採集。新神戸駅の燈火で1976年8月10日本吉 要採集、 四国(愛媛県面河溪)。幼虫の食草は不明である。

コエビガラスズメ *Sphinx ligustri constricta* Butler(スズメガ科)

開張8.5mm内外。前・後翅に2本の黒褐色帯があるが、前翅の内側は著しく不明瞭となる。腹部背面各節の両側基半部に淡紅色の鱗毛がある。

分布は北海道、本州、四国、九州と広い範囲であるが稀産。山地性。成虫は5~8月。幼虫はイボタ、トネリコ、ガマズミ、シジミバナ、シモツケ、ユキヤナギなどを食う。

この種も北部開発が実施されたら絶産となる。宝塚西谷で1976年5月20日燈火に飛来せしものを採集。

エゾヨツメ *Agria tau microtau* Inoue(ヤママユガ科)

原産は中欧、北方系の珍しい蛾。北海道から九州まで分布しているが出現期が4月中旬~5月上旬である為なかなか見られない。

開張♂70mm内外、♀は90~100mm。♂の觸角は羽毛状。♂の翅の地色濃褐色、♀は淡褐色。斑紋も深く半透明である。幼虫はハンノキ、クリ、コナラの葉を食う。6月上旬頃落葉の間などでまゆをつくる。蛹で越冬する。近畿での採集記録は箕面、奈良県吐山、有馬温泉、比叡山等で燈火に飛来したもの。宝塚市西谷地区で1977年4月10日採集したのは水田の稻株に静止していた。

この蛾もやがて絶産となるだろう。

ウスタビガ *Rhodinia fugax fuagx* Butler(ヤママユガ科)

開張 80mm内外。♀は100mm内外。♂の觸角は羽毛状、♀は兩櫛齒状。♂橙褐色。前翅は細く、翅頂部は外方へつきでる。♀は大きく黄色。前翅の幅は広い。年1回発生。成虫は11月に出現する。まゆを俗にヤマビュシヤクとかツリカマスと呼んでいる。卵はまゆから出た♀がまゆか樹の枝に産みつける。卵で越冬。幼虫はクリ、クヌギ、コナラ、ハンノキ、サクラ、カエデ、ケヤキ等の葉を食って成長しやがて6月中旬頃緑色で長い柄のあるまゆを作りその中で蛹化する。分布は広く本州・四国・九州の山地性である。戦前は阪神間(六甲山・有馬・大阪箕面山・妙見山)などの山地のふもとはは晩秋頃かなり見られたが、昭和30年頃から自然林や原生林が急速に少なくなった。その結果だろうかこの蛾が次第に減少した。1970年以後は分布が局限したののだろうか稀である。やがて絶産となるだろう。産卵数がすくないのも稀産である一要因と思う。

イボタガ *Brahmaea wallichii japonica* Butler(イボタガ科)

開張80~115mm。翅の表面には複雑な縞模様と眼状紋がある。昭和の初期頃は普通で3月下旬から4月にかけて羽化し燈火に飛来したが最近極めて稀である。1977年2月6日イボタノキの根もと近くの土中から蛹を採集。持帰って室内の飼育容器での成化は3月11日であった。蛹は黒褐色でやや大きく、腹端に錐状の突起がある。

幼虫はイボタノキ、トネリコ、ヒイラギ、ネズミモチなどの葉を食う。第1令~第4令幼虫は中胸・後胸・肛上板に各1対第8腹節背面に1本の長い黒い突起がある。第5令で突起は消失する。5月下旬頃老熟幼虫は土中で蛹となる。

分布は北海道・本州・四国・九州と広いが近年極めて稀である。大阪府箕面山、有馬温泉(1949年5月5日♂)。土佐沖島母島(1952年3月6日)。貝川(1960年3月31日)。和歌山県三尾(1971年4月3日)。新神戸駅の燈火(1976年4月24日)など各地の採集記録がある。宝塚の北部の開発が実施されると絶産となる。

ヒメアケビコノハ *Othreis fullonica* Clerk(ヤガ科)

開張95mm内外。暖地性である。8~10月に成虫は出現する。

分布：本州(宇都宮)、四国(愛媛県)、九州(英彦山、佐世保、対島)、奄美大島の記録がある。ハチ高原大久保で燈火に飛来したのを岡崎 宏が1974年9月15日採集。印度での食草はアオツヅラ科のものであるが日本では不明である。

キマエコノハ *Eumaenas salamina* Cramer(ヤガ科)

開張130mm内外。美しいヤガ科の一種。暖地性で台湾、中国南部、南太平洋諸島に分布する。九州・本州では偶産蛾で風などによって運ばれたものがたまたま採集されたのだろう。採集例：沖縄、九州では福岡県北九州市奥畑、長崎県福江市、対馬豆酸、大分県別府市、宮崎県。四国(徳島県)。本州では山口県阿武郡阿東町、鳥根県、広島市黄金山。和歌山県田辺市、三重県御在所岳。兵庫県ハチ高原大久保で燈火に飛来したのを1975年8月4日水島正司採集。幼虫の食草は暖地ではツツラフジ科のものであるが日本では不明である。

シロモンフサモクメ *Eutelia sinuosa* Moore(ヤガ科)

開張38mm内外。暖地性。6～7月、9～10月に出現する。分布は本州(岐阜、吉野、大峯山、比叡山、箕面山、兵庫県柏原町)、四国、九州(屋久島)、ボルネオ、印度と広いが局限的でごく稀で絶産となるだろう。

ヒメシロモンドクガ *Orgyia thyellina* Buler(ドクガ科)

開張♂は21～29mm。♀は30～42mm。出現は6～8月、10～11月。秋に羽化する♀は翅が退化して著しく短い(宝塚市宝梅1丁目で1975年10月25日採集)。又自宅でナガバユキノシタの葉を食っていた幼虫を飼育して1976年6月18日♀の成化を観察した。食草はリンゴ、ナシその他の植物。分布は北海道、本州、四国、九州、韓国、東シベリア、台湾と広域であるが個体数は著しく少ない。

宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その7)

新家 勝

I. はじめに

今回は1986年中の採取品について報告させていただく。今回もまた、採集場所は「宝塚市」を省略